

# OMO7大阪 by 星野リゾート



OMO7 大阪 by 星野リゾートにおける最大の特徴は「みやぐりん」と名付けられた緑の都市広場である。今宮戎神社に由来する新今宮の地名と緑の都市広場を掛け合わせて命名された。JR 新今宮駅のプラットフォームの北側に面する約 14,000 m<sup>2</sup>の敷地の大部分を広場として計画し、新今宮駅前風景を一新した。「みやぐりん」は都市の大きな緑地としてエリアの価値向上に貢献するデザインとし、街への開き方は、排他的に見えないよう工夫しながら物理的な出入りをフレキシブルにコントロールできるように計画した。

This project is a city tourism hotel located in front of Shin-Imamiya Station in Osaka. The site is located near Shinseki, a tourist spot represents Osaka and the Aimin district, a town for day laborers, has been left behind by urban development. The high-rise hotel building is placed on the north side to reduce the pressure to Shin-Imamiya Station. The majority of the south side is created as green square opened for the city. The hotel public space OMO Base is placed on the 2nd floor and aligned with the platform of Shin-Imamiya Station. The OMO Base is a public space that connected various spots and opened to the square and able to be used inside and outside in an integrated manner. The exterior membrane that envelops the guest room functions as a background that enhances the greenery of Miya-green during the day, and as a screen that projects special lighting at night and creates an "interesting" scenery not only for hotel guests but also for all visitors to this area. It also functions as an eco-friendly facade that shields heat by wrapping concrete with a large heat capacity with a membrane material with a small heat capacity and reduces the load of solar radiation.

## 新今宮駅前の風景を一新する緑の都市広場「みやぐりん」

### 「二つの谷」が場の共有感覚を生み出す

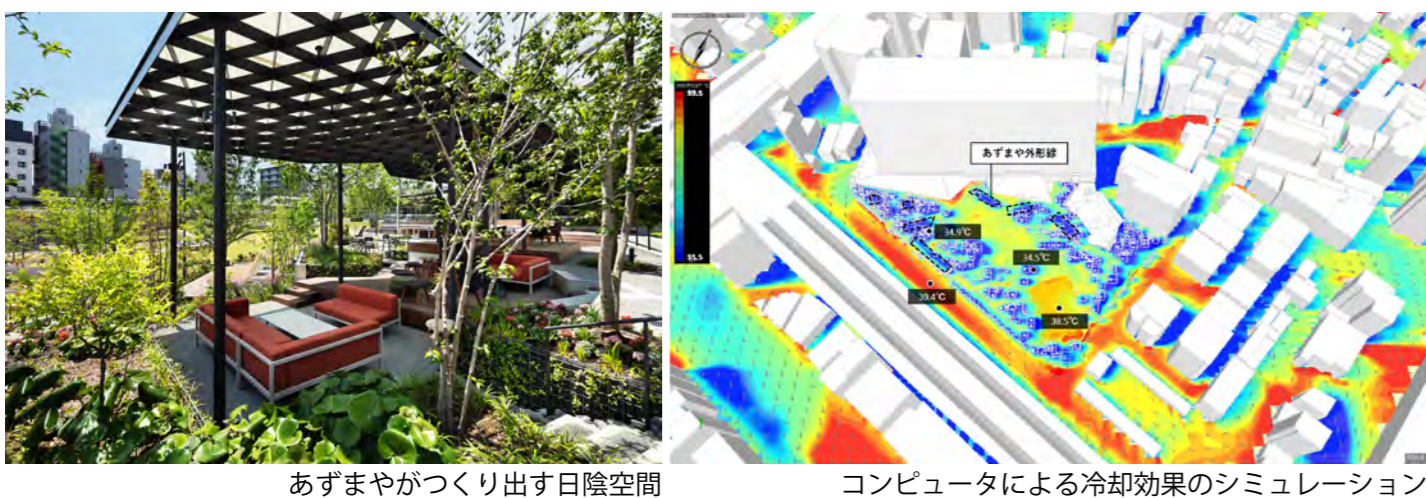
「道路の谷」を介して駅のホームと広場は同じレベルで互いに見合う関係になっており、そこに不思議な場の共有感覚が生まれている。また、メインの広場は中央を「芝生の谷」として凹ませ、その周りに観客席のように見下ろせるステップを配置し、人々の視線は芝生広場を介して互いに絡まり合い、芝生は様々なアクティビティのステージとなるよう計画した。(紙面右下断面図も参照)



みやぐりん鳥瞰写真

### 居場所をつくり地表面を冷やす「あずまや」

みやぐりんには7箇所の「あずまや」を配置し、様々な人の居場所を創り出している。あずまやの屋根材には外壁と同じ膜材を使用し、地表面への直達日射を軽減する計画としている。コンピュータソフトによる「みやぐりんの冷却効果」シミュレーションを行った結果、樹木やあずまやによる冷却効果が確認された。周辺道路のアスファルト面と樹木・あずまやの下部空間との表面温度 (SET\*: 標準新有効温度) を比較したところ、約5℃の温度低下が確認された。あずまやは柱と梁を鉄骨で組み、三角形の格子状に組んだ梁上に束を立て、膜材にテンションを与え固定する機構とした。



あずまやがつくり出す日陰空間

コンピュータによる冷却効果のシミュレーション

## 環境・設備デザイン評価表

評価項目	評価内容	評価項目に対する設計者のデザイン意図		自己評価	
		評価項目	評価内容	評価項目	評価内容
A. 操作性 (運用) Form	01 操作性	大規模な建物・設備を操作する際の操作性、使いやすさを考慮する。	○	2	○
	02 視認性	サイン・グラフィック、図説、案内板、看板、表示装置の視認性を高める。	○	2	○
	03 誘導性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	04 操作性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	05 完成度	サイン・グラフィック、図説、案内板、看板、表示装置の視認性を高める。	○	2	○
B. 機能性 (技術) Technology	06 機能性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	07 操作性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	08 視認性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	09 安全性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	10 操作性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
C. 社会性 (環境) Environment	11 環境負荷	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	12 操作性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	13 視認性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	14 安全性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	15 操作性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
D. 経済性 (LCC) Life Cycle Cost	16 LCC 削減	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	17 LCC 削減	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	18 操作性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	19 視認性	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○
	20 LCC	大規模な建物・設備の案内、誘導、サイン・グラフィックの視認性を高める。	○	2	○

### まちとの境界を曖昧にすることで、まちと一体となった都市広場を実現

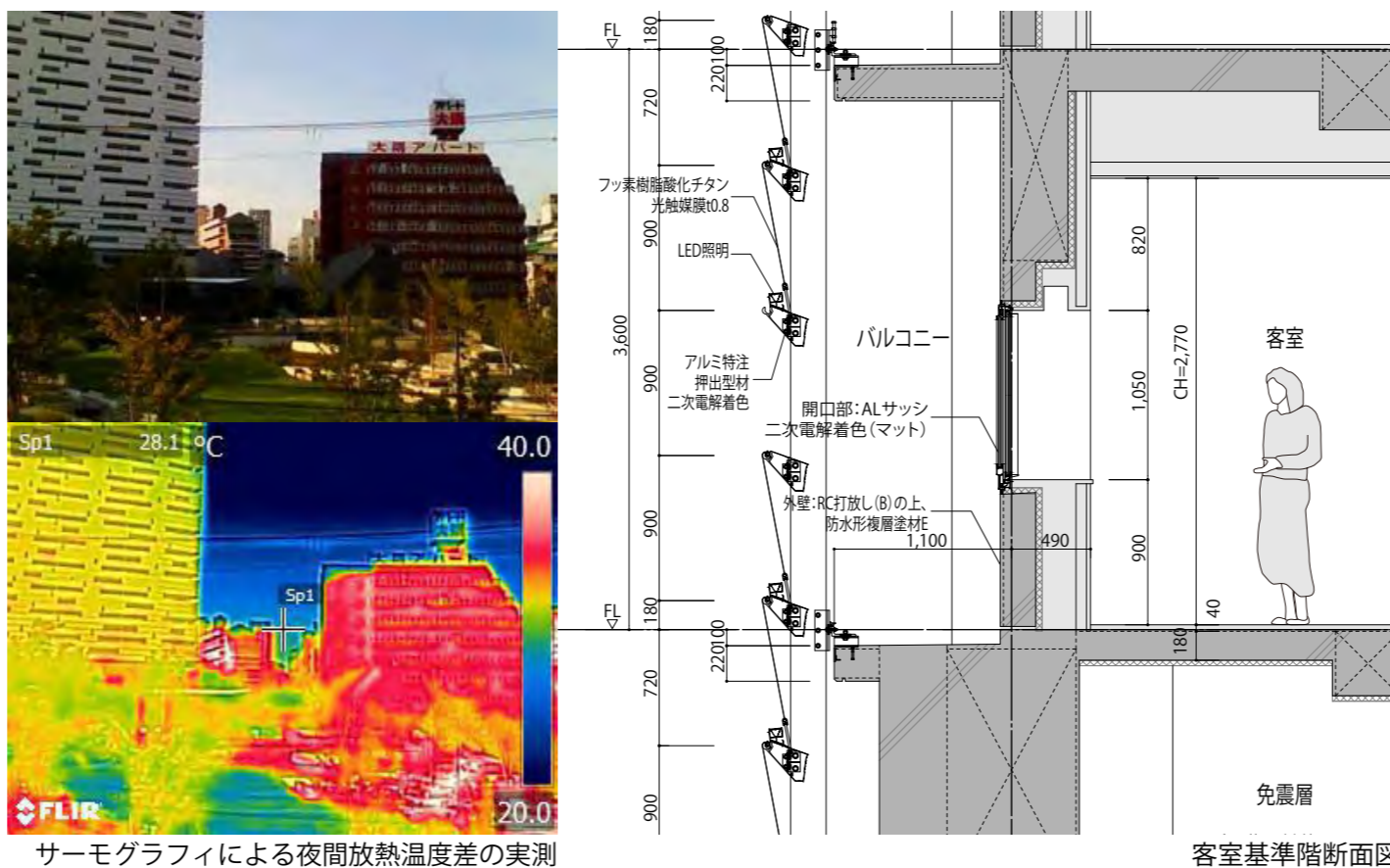
南側から東側のみやぐりんが道路レベルに擦りつく範囲については、柵などの排他的な境界ではなく、法面や低木により曖昧な境界となるように計画した。そうすることで、まちとのつながりを創り出し、まちと一体となった都市広場となるようにしている。管理上、止む無く設置している南東角の門は、将来、周辺住民の日常に開放されることを意図している。南東工



みやぐりん平面図

### 熱容量の低い膜材で覆い躯体を遮熱する

客室部の外装には膜材 (フッ素樹脂酸化チタン光触媒膜) を使用し、膜材の支持材にはアルミ押出成形材を使用している。熱容量の低い膜材により熱容量の高い躯体コンクリートの日射負荷を軽減した環境配慮型ファサードを開発した。

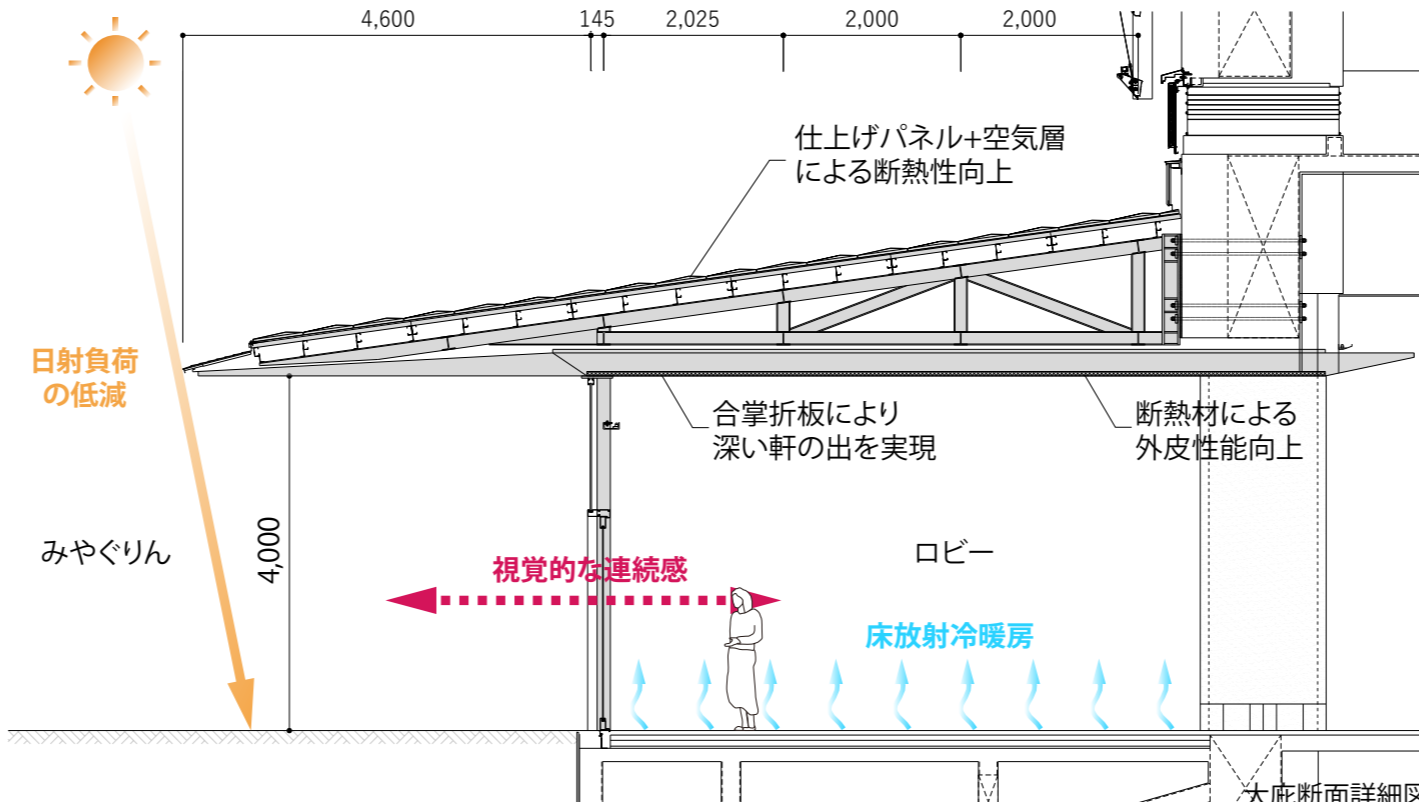


サーモグラフィによる夜間放熱温度差の実測

客室基準断面図

## 大庇がつくりだす軒下空間が建築とランドスケープを緩やかにつなぎ、調和させる

2階パブリックスペースとみやぐりんをつなぐ境界にはガラスカーテンウォール・コマガラス構法を採用し、視覚的に内外が一体的となるよう計画した。また、軒の深い大庇を設け、ロールスクリーンを設けずに直達日射を軽減し、ランドスケープとの視覚的な連続感を演出している。大庇が創り出す軒下空間は寺院建築などの日本の伝統的空間を参照したものであり、外部でもあり内部でもあるような曖昧な中間領域となるよう計



## ネガティブなイメージをポジティブに変える

計画地は、1970年代までは町工場が立ち並び敷地であった。1977年に大阪市が公園用地として取得したが、計画は実現されることはなかった。歴史ある観光エリアである新世界に近接し、交通ターミナルとしての利便性の高い稀少な土地でありながら、30年以上にわたって未利用の土地であった。2016年にホテル事業者を公募するプロポーザルが実施され、星野リゾートを代表とする事業グループが選定された。

JR 新今宮駅を挟んだ南側エリアには日雇い労働者の街である釜ヶ崎 (あいりん地区、西成とも呼称される) が広がり、過去の暴動等のネガティブなイメージは拭いきれない地域性であった。その反面、「ディープ」な下町人情や独特な文化を残す新世界を中心とした街は、都市観光における「魅力」として捉えることもできる。このホテルの出現がこの地域をポジティブに元気に変化させた。その姿は、歩道を行き交う乳母車を押す母の姿や「みやぐりん」をゴロゴロ転がる子供たちの笑顔や歓声に表れている。



1936-42年頃の計画地周辺の様子 1979-83年頃の計画地周辺の様子 当計画の模型 (実施設計時) 2017年の計画地の様子 (新今宮駅プラットフォームより) 竣工時の様子 (新今宮駅プラットフォームより)

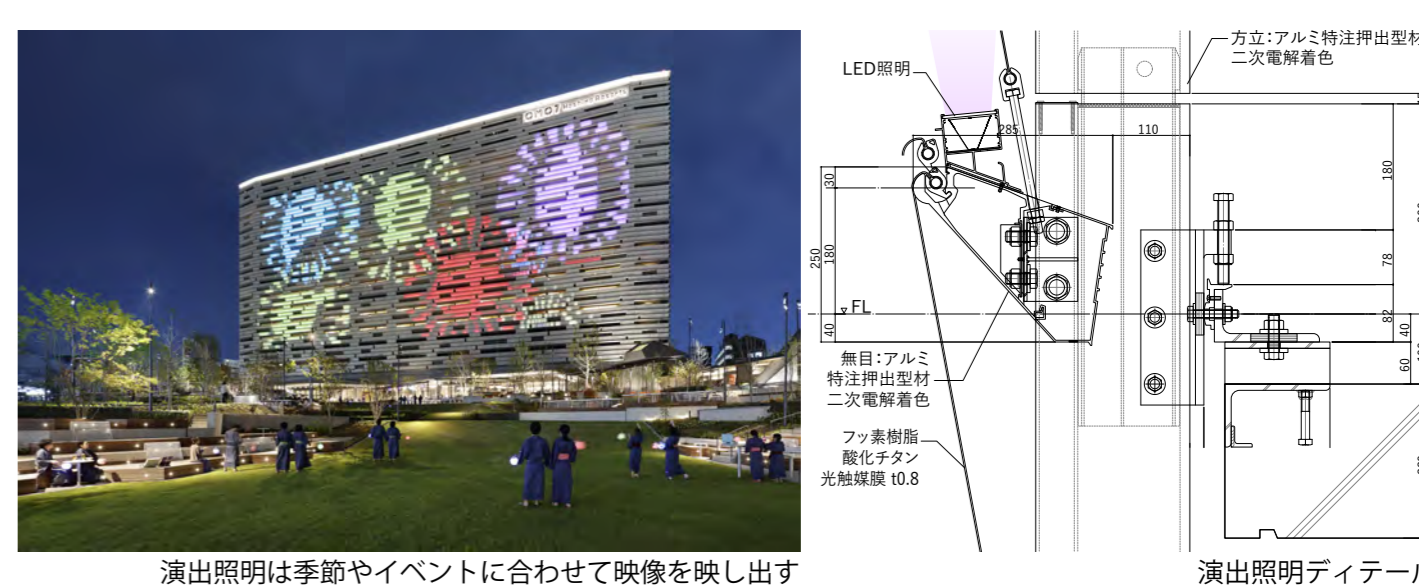
ントランスプラザから北西方向になだらかに建物2階に向けて登っていく芝生広場が、テラスのある緑の丘に挟まれる構成とした。JR 新今宮駅プラットフォームから見て、緑の丘、その向こうに芝生広場、さらにその向こう側にテラスのある緑の丘、2階パブリックスペースが見えてくる。西のテラスは、下部に車寄せ等のある人工地盤上に位置している。



みやぐりんよりあべのハルカスを見む

### 演出照明により街のイメージを明るく変える

この地域がかつて持っていた暗いイメージを払拭するため、観光客を年中おもてなしするため、外装膜の無目に13,674個のRGBのLED照明を配置した演出照明を計画した。DMX制御により器具1台ずつをPCで遠隔制御することで映像が浮かび上がる仕組みである。「みやぐりん」で外装膜を見上げる家族や子供たちから歓声があがることもこの街の未来を明るくする原動力になってほしいという想いから生まれており、宿泊者だけでなく、駅利用者や周辺の通行人に対しても明るい夜間の都市景観を提供する。



演出照明は季節やイベントに合わせて映像を映し出す

演出照明ディテール

## 大庇がつくりだす軒下空間が建築とランドスケープを緩やかにつなぎ、調和させる

画した。軒を深く計画しているため、雨天時においても利用できる屋上スペースとしても活用されている。庇の軒裏は、合掌折板と名付けたスチール3.2mmを加工した三角形断面の垂木が内外を貫き、内外の連続性を際立たせる。適度に日射を遮りながら心地よい風が吹くこの軒下空間は、日本建築の広縁で涼んでいる感覚にも似ており、ランドスケープと建築を緩やかに調和させる空間となっている。



軒下がつくり出す中間領域

内外に貫く合掌折板

新今宮駅プラットフォームと2Fレベルを合わせる

道路の谷

芝生の谷

断面図